国立民族学博物館共同研究会
「中国の社会変化と再構築―革命の実践と表象を中心に」　（研究代表者：韓敏）　2006. 10. 6

現代の中国社会に関する韓国の人類学的研究をめぐる現況

金 光 億（ソウル大学教授. 人類学）

1. 中国研究の歴史的背景

1993年 韓中修交以後、中国研究が本格的に開始。
現在の中国研究における新時代： 1980年代後半から始まる。
韓国国内の修博士と米国留学派が主流。
中国史、中文学、社会学、地理学、政治学、経済学出身など、他の学問分野を
バックグラウンドとしてもっていた。

2. 韓国人類学会での中国研究の特徴

2-1. 国家(State) を主とした研究関心

民族(Nation/ Ethnic Group)中心のアプローチと国家(State)中心のアプローチ。
民族集団の文化と社会制度の特殊性についての理解。民俗と民族文化。
韓国―社会科学全般で―国家体制による社会構造的特性を説明の基本にする。
毛沢東時代の社会主義体制とPost-Mao(毛)時代後期の社会主義体制。
現実=国家権力 vs. 人民の伝統

(例)
(漢族)宗族=国家的理念体系と政治的条件 vs. 機制に対する反応/適応
民間信仰および民俗=経済資源化+(地方)政府の発明+人民の再生産.
基層社会の権力構造=行政体系+非公式的な権力集団形成+公権力：妥協と共謀
市場和日常世界的再構成: 國家-市場 關係.
消費階層化/ ネットワーク/ 行為/ 想像
政治構造/政治体制/政治領域の脈略を外れては現代中国のどんな社会的、文化的現象も
正しく把握できないという立場。

(農)民工/ 都市化/ 人口の流動/ 農村問題/ 信仰生活/ 民衆宗教の現実/ 廟会およびその他多様な 伝統的祭りの復興/ 華僑問題/ 情報産業(IT)および映像産業の確立と拡散過程/ 自殺の研究/ 労働關係/ 貧困および失業問題/ 環境問題/ 朝鮮族の移動/ 模範村の発明/ 人民の自律的な

力と 国家権力の関係/ 鄂侖春/ イ族/ 香港居住の住民の範疇とethnic politics/ 韓流

2-2. 国家と政治体制に対する関心=韓国の歴史的経験+ 知識人の伝統

現在の中国研究者の大部分：386世代。

反政府+ 民主化運動

資本主義体制批判+ 世界体制論+ 新植民体制論

国家権力と市民運動(civil movement)

階層化+ 貧困の(再)生産+ 都市と農村の格差+

文化運動： 民衆(大衆)文化の政治資源化/ 文化の政治(politics of culture)

3. 今後、韓国の人類学者たちが解決しなければならない問題点

3-1. 国家(Nation)、Ethnicity、伝統、歴史に対する深層的理解

民族(エスニック：伝統文化の社会)と国家(政治、経済)の結合

中国、韓国、日本のような長い間培われた文明と国家の歴史をもった現代社会の研究についての方法論

米国の人類学的伝統に対する根本的な見直し

沒(無)歴史的(ahistorical)および 没(非)政治的(apolitical)なアプローチ

現地調査の時間と空間の制約をどのように克服するのか？

3-2. 人文学と社会科学の結合

政治+ 歴史+ 世界観+ 民俗

langue duree

歴史人類学の問題

社会科学的視覚

政治人類学的アプローチの問題

「国家―社会」の命題下でポスト毛時代の各種の変化を権力関係に基づいて説明。

J. Scott式 「支配-抵抗」のに文法的な観察。

人民：「主人としての百姓」

3-3. 想像の共同体と現実としての中国

多民族(multi-ethnic)/ 多国籍(multi-national) 国家(state)

少数民族―漢族関係の実体

文化の妥協

国境(national boundary)と国家共同体(national/state community)

想像の共同体(imagined community)：「国家」の役割と權力

boundary, territory, micro/macro level, homogeneity etc.

4. 伝統的な人類学と現代の人類学の対話

総体的な(holistic)アプローチの問題

長期滞在および調査与件の不備。

multi-sited, floating space

日常世界の各領域間の「関係」

人類学的な知の生産と読者の関係

英語圏の学会との関係における各地域(中/日/韓)の学会の交流